

北河内会報 自然愛好会

2022年8月20日 No.114

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 430 回例会「淀川・三矢ワンドの植物」大阪市 2022 年 5 月 3 日

木村雅行

少し心地よい風の吹く、よく晴れた春の淀川河川敷の植物観察でした。ラポールひらかた前に集合、天野川の堤防敷から三矢地区の河川敷に向かって歩きました。今日は野草の花の色にこだわって観察してみました。集合場所で皆さんに今日の観察会で咲いている野草の花の色（青色・黄色・赤色・白色）の多さの順位を予想してもらいました。すべての順位が当たれば大当たり、景品もありです。

集合場所から枚方大橋までの河川敷で見られた色別の花は以下の通りです。残念ながら 1 位か 4 位まですべての予想が当たった人はいませんでした。次に 2 つの順位を当てた人は長島さん、西畑さん、北川さん。中野さん、三原さんの 5 名でした。なかなか当たらないものです。もう少し時期が早ければツメクサ・ハコベ類のナデシコ科やタネツケバナ類のアブラナ科などの白色の花がもっと多く咲いていたかもしれません。

1 位 黄色の花 ハハコグサ・ノゲシ・カタバミ・アオオニタビラコ・セイヨウタンポポ・ヒメブタナ・オッタチカタバミ・コマツヨイグサ・セイヨウカラシナ・クスダマツメクサ・カンサイタンポポ・ミヤコグサ・セイヨウヒキヨモギ・コメツブツメクサ・トゲミノキツネノボタン・オヘビイチゴ・イヌガラシ・ヤブタビラコ・ニガナ・オオジシバリ・ウマゴヤシ・オキジムシロの 22 種

2 位 青色の花 キュウリグサ・タチイヌノフグリ・ミゾコウジュ・オオニワゼキショウ・ナヨクサフジ・マツバウンラン・クスダマツメクサ・トキワハゼ・ムラサキサギゴケ・ウマゴヤシ・スズメノエンドウ・ヒメクマツヅラ・オオカワヂシャ・ハナイバナ・ヒナギキョウ・オオマツバウンランの 18 種

3 位 赤色の花 アメリカフウロ・スイバ・コヒルガオ・ユウゲショウ・ニワゼキショウ・ナガミヒナゲシ・ハルジオン・ヤハズエンドウ・イモカダバミ・アカツメクサ・ホトケノザ・ヒメオドリコソウ・トウバナ・キクノハアオイ・ダンゴツメクサ・キツネアザミの 16 種

4 位 白色の花 セッカニワゼキショウ・ネバリノミノツヅリ・ヒメジョオン・シラホシムグラ・オヤブジラミ・シロツメグサ・ノビル・マメグンバイナズナ・シロバナマンテマ・ナズナ・ムシクサ・オランダミミナグサ・シロバナユウゲショウの 13 種

ナガミヒナゲシの 2type を河川敷の草地で確認しました。花卉に隙間があり、花(果)茎を切ると黄色い乳液が出るものと、花卉が重なり隙間がなく、花(果)茎を切ると白色の乳液が出るものです。

ニチナンオオバコの小さい株が通路のインターロッキングブロックの隙間にたくさん生えていました。別名がイトオオバコといわれる通り細長い葉が特徴のロゼッタですが、気を付けていなければ見落としてしまいそうです。

カジノキの果実を確認しました。北河内ではカジノキは社寺には植えられていることがありますが自生は少なく、枚方市でも淀川の敷カ所で見られる程度です。

トケイソウが河川敷の林縁に絡みついていた。たくさんの蕾をつけていましたが、開花は高所の一つだけでした。これからが楽しみです。

タコノアシの果実を三矢ワンドの湿地草地で確認しました。タコノアシは近年少なくなったと感

じる希少種です。

観察した三矢ワンドは近年に造成された細長い水路のようなワンドです。水際に降りるのに通路や階段はがなく、コンクリートブロックを数段降りなければなりません。足の具合の良くない方々数名はワンドに降りられず、申し訳ありませんでした。

◎参加者：栗田泰子、稲原良三、稲原ヒサエ、岩井幸恵、榎本知恵子、太田 理、影千恵子、北川ちえこ、木村雅行、武田良子、田中光彦、長島照文、中野潤子、西尾フミ子、西畑敬一、波多野恵子、山田 晃、岩永圭司、菊本綾子、三原真人（以上 20 名）

第 431 回例会「淀川・城北ワンドの植物」大阪市 2022 年 6 月 4 日

稲原ヒサエ

印象深い植物たち

6 月はじめとは思えぬ日中の暑さが続く中「城北公園通駅」に集合し、北方向にある淀川に向かって城北緑道を植物の観察をしながら進み、淀川に到着すると堤防沿いに上流側に進み、河川敷・ワンド周辺の植物を観察し、淀川本流の見えるワンドの木陰で昼食。さらに観察しながら菅原城北大橋の下を通りワンドを横切って河川敷からスーパー堤防の上に出る。右手に城北公園の大池、左手に菖蒲園の入場待ちの人々の列を横目で見ながら公園内を横切り、バス停前で 2 時頃解散。

今回の観察会のハイライト「ヤセウツボ」の開花時期に合わせて繰り上げ臨時の観察会をメーリングリストで案内の上、5 月 18 日に実施して頂いたが、残念ながら私は参加する事が出来なかった。（その時の参加者は 6 名とのこと）

観察スタートの始まりに驚いたのは駅前の線路のガード下の溝に本日のメインのヤセウツボが 1 本生えていたことだ。なぜ、こんな所に？ と思いつつ観察会が始まる。淀川ワンド方向に向かって長い、なが〜い緑道、城北緑道がある。その緑道を進む。

観察の途中で突然「アイタッ、イタタター!!」と西畑さんの声。『メリケントキンソウ』のトゲに刺されたとの事。先月 5 月 3 日の三矢ワンド（枚方）例会で観察した際はまだ小振りだったが一か月経つと大きく育ち、トゲも堅くなっていた。街中の公園にまで繁殖しているのに脅威を感じた。川原等で犬を散歩させていると足裏の肉球をも貫き大変な怪我になるそうだ。

『セイヨウキンシバイ』 緑道を通り抜けた所にある団地の生垣に黄色の花を咲かせていた。花弁よりおしべが長く突き出ている、華やかであった。続いて出てきたタイリンキンシバイはおしべが短く目立たない。「セイヨウキンシバイ」・「タイリンキンシバイ」・「ビヨウヤナギ」・「キンシバイ」の 4 種について木村さんに本を見せてもらいながら説明してもらったが、3 歩歩いたら頭の中がこんがらがり解らなくなっていた。

『セイヨウヒキヨモギ』 淀川のスーパー堤防を下った所で小さな黄色の花を咲かせていた。ヨモギに寄生することからこの名があるらしい。（田中注：在来種のヒキヨモギに名前が似ているが別属でヒキヨモギとは無関係。11 科 23 種に寄生するらしい）

『ヤセウツボ』 本日のメインも寄生植物でマメ科の「ムラサキツメクサ」（別名アカツメクサ）に寄生していた。アカツメクサの群生の中にニョキッと一本立ちに生えている。ほとんどは花が終わっていたが、草を分け入ると遅れて生え出たものがあり、ムラサキの斑点がある花を美しく咲かせていた。どのように寄生するのか？ の質問に、さすがである、根を掘り観察させて下さった。アカツメクサの根の部分を含むようにヤセウツボの根が覆っている（参照：写真①）。良いものを見せてもらったと感激した。寄生するのはマメ科のアカツメクサに多いが、キク科やセリ科の植物にもするらしい。スタート一番に見たガード下側溝のヤセウツボは何に寄生していたのだろうか？

『ナヨクサフジ』 紫色の花も終わりかけていたがたくさん見られ、緑の草地には目立つ色彩だった。楕円形の豆果がいっぱい出来ていた。

『チガヤ』 スーパー堤防を見上げると土手の緑の草原の所々に白い楕円形の大きな島が点在しており、背丈は低いがススキのように白い花穂が風になびいていた。若い花穂は甘味が有り、小さ

い時に摘んで食べた経験がある。食糧難の時代、この甘味もおいしく思えたものであった。

『ミコシガヤ』 堤防の草花の中にあつたスゲの一つ。密集した穂を神輿に見立ててこの名があるらしい。茎は鋭い三角形で、触ると痛みを感じるほどであった。

『ワンドスゲ』 日本では此処と熊本県だけに生育する絶滅危惧種のスゲだそうだ。

『マコモ』 木村さんが茎をハサミで切り、楕円で渦巻き状の、維管束がある断面を見せて下さった。木村さんの観察方法は実におもしろく楽しい。以前にも「身近な木の実・草の実ぶつ切り図鑑」を見せてもらい、自然界の配置、色合いに驚きや感動を覚えた。

『カサスゲ』 葉が堅くて丈夫なので、昔は笠や蓑を作るために栽培されていた。名の由来はそこから来ているようだ。茎の先に雄花が集まって茶褐色の小穂が付き、その下に円柱形の雌花の花序が数個ついている。一夫多妻のスゲである。観察していると役目を終えてグッタリと萎れた雄花を発見、思わず「ご苦労様でした。」と声を掛ける。

『ジャンボタニシ』のピンク色の卵を西畑さんが見つけれられた。卵一個の大きさは 3mm 位だがワンドの水際の枯れた穂の茎にギッシリと付いていた。しばらくして抜け殻を見つけて来られた(直径 5cm 位)。本当にジャンボだ。昔、子供の頃、田んぼのそばでタニシを捕り、泥を吐かせて食べたことがあつた。これも食用に成るのかと問うと「以前は食用として輸入していたので食べられると思う」ということで、西畑さんは食べたことが無いそうだ。今では逃げ出したものがイネ科植物の大きな害虫となっている。

『センダンキササゲ』 昼食を摂るため、本流側の木陰を求めて歩きだす。そこにこの木が生えていた。沖縄では早くから見つかった南方系の帰化植物だが、大阪では初めてで田中さんが見つけたそうだ。(参照：写真②)

『コゴメイ』 茎を裂くと中の維管束が梯子状になっているのが特徴。

『クサイ』 果実は濡れると付着しやすく、移動動物で散布される為、人の踏み跡等によく見られる。(参照：写真③)

『スズメノチャヒキ』 各節に 1~3 個の枝があり、1~2 個の小穂がある。小穂は 3~4cm の長いノギがある。イネ科の植物は鳥や動物の名が付くものが多い。ネズミムギ、カラスムギ、イヌムギ、スズメノテッポウ、ネズミノオ、ウシノシッペイ、スズメノヒエ、イヌビエ、キツネガヤ、カモガヤ、スズメガヤ、ネズミガヤ、コスズメガヤ等。

『キカラスウリ』 予定の時間よりワンドの観察が早めに終わり、集合地の JR 城北公園通駅まで戻る途中に生えていた。多年草で芋状に膨らんだ根は直径 15~16cm 位の大きさになり多量のデンプンを含む。昔はこれをすり下ろし、乾燥させて天瓜粉(てんかふん；赤ちゃんのシッカロール)を作っていた。

日差しは強かったが、心地よい風が吹き、余り暑さを感じさせない楽しい観察日でした。皆さんありがとうございました。

◎その他の観察植物：(栗田さんからの情報)

ワラビ・ミドリヒメワラビ・スギナ・シケシダ・ワンドスゲ・タチスゲ・シラスゲ・ヤワラスゲ・ミコシガヤ・アゼナルコ・ヨシ・オニグルミ・オオタチヤナギ・ノイバラ・ダキバアレチハナガサ・ハマツメクサ・イヌムギ・カラスムギ・ネズミムギ・ススキ・マメグンバイナズナ・ムラサキツメクサ・シロツメクサ・ウラジロチチコグサ・チチコグサモドキ・クサギ・セキショウ・ヒメジョオン・ヘラバヒメジョオン×ヒメジョオン(両者の雑種)・セイヨウキンシバイ(植栽)・ユウゲショウ・ナガミヒナゲシ・シナダレスズメガヤ・ヨモギ・クズ・ヤブガラシ・ヘクソカズラ・カナムグラ・ヤマノイモ・アレチウリ・ナガイモ・カモジグサ・アオカモジグサ・アカメガシワ・アオツヅラフジ・フジ・トウネズミモチ・オリヅルラン(植栽)・ウスアカカタバミ・カタバミ・オッタチカタバミ・ムラサキカタバミ・ウシハコベ・スズメノカタビラ・ナガバギシギシ・アレチギシギシ・セイタカアワダチソウ・ナガエツルノゲイトウ・コナスビ・コモチマンネングサ・ツルマンネ

ングサ・オカタイトゴメ・ミドリハカタカラクサ・イワヒメワラビ・クルマバナ・ショウブ・キショウブ・ホソバミズヒキモ・クロモ・マツモ・コセンダングサ・ゴキヅル・イシミカワ・ヤブジラミ・コウガイセキショウモ・アメリカアサガオ・アキニレ・ムクノキ・エノキ・センダン・エゴノキ・セイバンモロコシ・オオエノコロ

◎参加者：栗田泰子、磯田一雄、稲原ヒサエ、稲原良三、木村雅行、田中光彦、西畑敬一（以上 7 名）

《会員交流コーナー》*****

＜教えて＞写真の水草分かりましたら教えてください。2022 年 5 月 13 日 大阪市立敷津小学校ビオトープ在来種の植栽が行われていましたが、業者が入れたものだと思います。（5/16 北川ちえこ）

＜教えて＞大阪市立川北小学校でスタッフが見つけた植物です。どこかで見たことのあるような気がするのですが思い出せません。分かりましたら教えてください

（スタッフコメント）葉は広げても 5mm ぐらいの小さなもので、真ん中に花のようなものがそれも 2mm ぐらいですが、現場でわからなかったの、写真でわかりますでしょうか？環境はわりと湿気しているところです。（5/29 北川）

＜教えて＞写真の植物はクマツヅラかなと思うのですが、本物を見たことがないので自信がありません。大阪市立南大江小学校（谷町 4 丁目）の調査に行ったスタッフから送られてきたものを転送しました。多分、植栽だと思うのですが。

（スタッフコメント）南大江の「南門横学習園」で咲いていたものです。すぐに名前が出ませんでした。花と葉の写真、わかりますでしょうか？（7/3 北川）

＜飯盛山のフクロウ＞西畑敬一さんからの情報。カラーグラビア版でご覧下さい。

◎異動等：入会：三原真人（高石市）5/20

（敬称略）退会：細川満佐秩（まさお）（交野市）8/12 ご逝去。ご冥福をお祈りいたします。

◎編集後記：毎日暑いですね。それにコロナ感染拡大が止まりません。身近な人の中にも陽性が出て、いつでもどこでも感染する可能性が避けられない状況です。暑さやコロナに気をつけてご自愛下さい。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。（太田）

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第 430 回例会「淀川・三矢ワンドの植物」木村雅行-----1

第 431 回例会「淀川・城北ワンドの植物」印象深い植物たち 稲原ヒサエ-----2

会員交流コーナー-----4 異動、編集後記-----4

カラーグラビア版-----別刷 例会案内-----別刷

岡田雅彦さん・日本画「秋苑」（ケイトウ、キク） F150 第 5 回川端龍子賞展（1994）

（カラーグラビア版でご覧下さい）